



平成18年度 福祉有償運送	
登録ボランティア数	86名
登録車両数	85台
登録利用者数	40名
送迎回数	3802回

(八幡・小倉事業所合算H19.3.31現在)

平成一八年度 「さわやか」活動報告

研修交流会

- H18.7.9 第25回ボランティア学習会
 【真鶴会館】
 「福祉有償運送について」
 北九州市保健福祉局 濱田孝洋係長
 「安全運転・道路交通法改正について」
 小倉北警察署交通課 秋吉克行係長
 38名参加
- H18.7.30 三県合同ボランティア研修会
 【長崎県佐世保市】
 「ボランティアの定義・心得」
 県民ボランティア 支援センター長 岩永秀徳氏
 3名参加
- H18.9.24 第26回ボランティア学習会
 【ウエルとばた】
 「安全・安心な送迎のために！」
 (透析患者さんを理解しましょう)
 門司港腎クリニック 田中秀欣院長
 34名参加
- H19.3.6 第27回ボランティア学習会
 【小倉第一病院】
 「透析について・・・」
 「透析室の見学」
 小倉第一病院 中村秀敏副院長
 31名参加
- H18.12.3 「さわやか」創立10周年記念式典・祝賀会
 【北九州八幡ロイヤルホテル】
 記念講演
 「通院送迎について」
 (社)全国腎臓病協議会 金子智常務理事(当時)
 94名参加

五月二十七日(日)ウエルとばた(北九州市)六階会議室で、特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」第四回総会が開催されました。岡副理事長が開会宣言を行い、資格審査委員に高原理事と寄友事務局員が選任されました。

五月二十七日(日)ウエルとばた(北九州市)六階会議室で、特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」第四回総会が開催されました。岡副理事長が開会宣言を行い、資格審査委員に高原理事と寄友事務局員が選任されました。



第4回 特定非営利活動法人 通院介護センター 「さわやか」総会 開催

この厳しい時代を乗り越える為にも 全国に広がった通院送迎の事業所との 交流や情報交換が大切



の運営にも影響が出てくると思われます。この厳しい時代を乗り越える為にも、全国に広がった通院送迎の事業所との交流や情報交換が大切になり、また、北九州市の運営協議会や各障

害者団体との協力が必要になってきます。現在、北九州市が計画している共同配車センターの設立に向けての準備会への協力など、今後、全腎協や福腎協に指導を仰ぎ、なにより北九州市腎友会の力をお借りしてこの通院送迎事業をさらに発展させていきたいと、挨拶がありました。

議長には、福腎協岩崎真一副会長が選任されました。続いて、議事録署名人に岡副理事長と加峯理事が選任されました。

資格審査委員より、午前十時五十五分現在、総正会員数二十八名、出席者数二十六名、

害者団体との協力が必要になってきます。現在、北九州市が計画している共同配車センターの設立に向けての準備会への協力など、今後、全腎協や福腎協に指導を仰ぎ、なにより北九州市腎友会の力をお借りしてこの通院送迎事業をさらに発展させていきたいと、挨拶がありました。

次に梶原副理事長より平成十九年度の事業計画(案)及び収支暫定予算(案)の提案がなされ、満場一致を持って異議なく承認されました。

その他として山田理事長より事務局員と送迎ボランティアの募集について、北九州市腎友会及び各病院腎友会の協力を求める旨要望がありました。

以上をもって総会の議案全ての審議を終了したので、議長は解任の挨拶を行い、梶原副理事長が閉会を宣し正午に閉会しました。

次に梶原副理事長より平成十八年度の収支決算報告があり、小田監事より会計監査の報告が行われました。その後、山田理事長より活動方針(案)が提案され承認されました。(裏面掲載)

次に梶原副理事長より平成十八年度の収支決算報告があり、小田監事より会計監査の報告が行われました。その後、山田理事長より活動方針(案)が提案され承認されました。(別途掲載)



二〇〇七年度「さわやか」活動方針

(I) 全腎協、福腎協と協働して運動する。

全腎協の理事会の中に、特別に「通院対策委員会」も創設され、力を入れてもらっています。今年、全腎協が主催で「通院問題を考える市民フォーラム」が開催されます。「さわやか」も積極的に協力し参加します。

福腎協も、「構造改革」がすすめば、県に権限が委譲されるので、共に協働してゆかねばなりません。二〇〇八年の抜本的医療改革、診療報酬の改定では福腎協の役割が大きくなります。健康保険制度も、市町村で運営することになると、地域格差が広がってきます。

(II) 九州三県の通院送迎事業と連携する。

ネットワーク作りに協力します。三県の事業所が連携することは、それぞれの組織を守り、発展させることに大きな意義をもつことは、いうまでもありません。三県が足並みを揃えて、頑張る必要があります。一箇所でもなくなれば、

(III) 北九州市腎友会の力を借り、市保健福祉局の指導を仰ぎ、様々な運動の前進を目指す。

「福祉有償運送」陽の目をみたらばかりの「福祉有償運送」でこれから、幾多の困難があるか、わからないが、透析患者と講師として参加することになります。



二〇〇七年度 全腎協全国大会 IN 佐賀



佐腎協 中島会長

初夏を思わせる好天に恵まれた五月二十日(日)佐賀市文化会館において「二〇〇七年度全腎協全国大会 IN 佐賀」が開催されました。唐津くちの曳山の画像とお囃子で幕が開



者と難病患者の送迎は続けて行かなければなりません。

また、山田理事長と岡副理事長は北九州市地域福祉振興協会より依頼され、国土交通省が認定した「福祉有償運送」運転者インストラクター養成講座講習会に参加しました。今後、「福祉有償運送」の運転者講習会があれば、上記二名が講師として参加することになります。

「自立支援協議会」北九州市は「自立支援協議会」を設立する方向で、計画を進めているようです。「さわやか」とりま

してもその動向を見守り対応していきます。

「地域生活支援事業」北九州市障害者小規模共同作業所を、国の制度にして、助成金も国からもらう制度です。今ところ、「さわやか」は条件が満たされないで「地域生活支援事業」への移行は困難な状況です。今後、移動サービスと関連づけて考えてみます。

(IV) 北九州市障害者小規模共同作業所連絡協議会と連携を強める。

福祉も、どんどん変化しています。皆様のお力をお借りして頑張っていかなければなりません。



東背振バンブーオーケストラ

臓疾患になる危険性が高くなり、またいたるところで石灰化が進み動脈硬化になります。長い時間をかけて透析をしないとたくさんリンは除去できません。長生きをするにはリンの管理が大事で

(V) 更なる発展のために、事務局の体勢を再構築する。

上記の任務を遂行するには、後継者が必要です。もう一人事務員を募集することにしています。

以上で、運動方針の提起を終わります。揺れ動く内外情勢の奔流を見極め、走りながら考え前進します。



午後からは五つの分科会が企画され、出席者はそれぞれ感心のあるセミナーに参加して、多くの質問や問題提起がされました。

今回の大会には全国から千二百人という多くの仲間が集まりました。

また、隣県ということもあり、福岡県からは二百人以上が参加をして大会は盛り上がったものになりました。